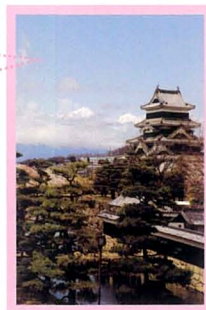


こども記者の取材教室レポート

取材教室のあった日、松本市立博物館のある松本城は、花見を楽しむ人たちでにぎわっていました。同博物館には、65年前の戦争のころだけでなく、縄文や幕末などいろいろな時代の暮らしにまつわるものを展示しています。実際に展示物を触ったり、身につけたりできる企画展も、みんなも一度出かけてみてね!



蓄音機のはり、バラのとげでも

富山大成記者



ぼくが一番びつくりしたのは、ちく音機のはりの代用品のことです。竹を使ったという事は分かったのですが、びつくりしたのはこの次です。岩原勝さんによると、バラのとげを代わりに使っていたというのです。

ちく音機が広まったのは昭和初期のことだそうです。音楽を聞く時にひつようなレコードは、そのころの働いている人のきゆうりょうの半分ぐらいだったそうです。そのころはごはんを食べるのも大へ



教室で使った蓄音機はすべて、岩原さんのコレクション。蓄音機(1)は、みんなの顔の何倍もの大きさがあるよ

げたをはいてなわとびしていた

東山幸奈記者



雪の日用のげた

私はめずらしい「げた」をはきました。一番印象に残ったものは、雪の日にはくげたで、ふつうのげたとはちがう事がたくさんありました。

まず一つ目は、ふつうのげたは、はなおの部分にきじの切れはしを使っていますが、雪の日用のげたでは、皮のよくな丈夫なものが使っていました。話をしてくれた丸山年子さんは「雪でぬれてもだいじょうぶなように使ったのでは」と話していました。

二つ目は、ふつうのげたは、歯が二つあるのに、雪の日用のげたは、雪道があるきやすいように、歯は一つしかなく、つままきが地面についています。

昔は、なわとびをする時、げたをはいていたいたら、とてもむずかしいんじゃないかなと思います。丸山さんに話を聞くと、「今のくつとおなじように、げたをはいて、とんでい



音のけた、一試着中



お風呂は銭湯で1週間に2回だけ

鈴木誠司記者



振り子のついた柱時計は、毎正時、時刻の数だけ「ぼん」と鳴って、時を知らせてくれます

丸山年子さんに、65年前のことを聞かせてもらいました。一番びつくりしたことは、1週間に2回しか、せんとつに行かなかつたことです。今は家におふろがあるから、毎日入れるけど、昔は家におふろがなかつたから、せんとつに行つたと聞いていました。

学校に行く時は、ぼうくうずきん、ひじょう食、ランドセルを持って行ったと言っていました。空しゅうけい報が鳴つた時に、ぼうくうこうにひな

登下校の時は、防空ずきんと非常食を入れたかばんも肩から提げていました



防空ずきんはこんな風にかぶります



敵の飛行機が近づいたら、自と算を手でふさいで、地面にふせる訓練をしました



戦争の頃、軍歌などを流していた古いラジオは、今もちゃんとラジオ番組が聞けました

記者の極意 その5

勇気をもつ

記者として、大切なことを覚えておきましょう。

「勇気をもつて! だいじょうぶだよ!」

取材の時は、初めて会う人なので、どきどきするかもしれませんが、おそれることなく話を聞きましょう。

信毎こども新聞は、毎週日曜日 信濃毎日新聞にのってるよ!

信毎こども新聞では、4月の新コーナーとして、**いろいろ募集中**です。

【5月のテーマ】**給食で好きなもの**

100字くらいのメッセージを募集します。出るとうれしい大好物や学校の自慢のメニューなど。理由もおしえてね。

写真で伝えたいおもしろいネタを募集します。自分で撮った写真に、400字くらいの記事をつけてね。

【応募方法】郵便番号、住所、電話番号、名前(よみがなも)、学年を書いて、信濃毎日新聞地域活動部「こども新聞」あてに、ハガキ(〒380-8546 長野市南栗町657)、ファクス(026-236-3193)で送ってね。※写真の画像は、メール(e-chii ki@shinmai.co.jp)でも受け付けています【お問い合わせ】信濃毎日新聞地域活動部 TEL026-236-3110

信毎の新聞語 第4版

【ダブルチェック】

だぶる・ちえつく

人や場所の名前、日づけなど記事の内容に間違いがないか、新聞にのる前に二重、またはそれ以上に十分確認すること。いくつもの資料を調べたり、ほかの記者も一緒にチェックしたりする方法がある。